

中高一貫教育だより

～広尾の子どもは広尾で育てる～

第62号

令和5年

3月発行

発行者

広尾町中高一貫教育推進委員会



《中高一貫》 進路講話



〈高校生から中学生に伝えたいこと〉

2月1日（水）、広尾中学校体育館にて「中高一貫進路講話」が開催され、「中学生に伝えたいこと」をテーマに4名の広尾高校の生徒が講話を行いました。

佐々木流星さんは進路実現の陰には小論文の練習など放課後の先生方の熱い指導があり、感謝の気持ちを大切にしたいと語りました。

また、何事も後回しにせず、今から勉強をしっかりすることで自分の将来の選択肢を広げることができると中学生にメッセージを送りました。

看護師志望の野田愛友奈さんは、高校2年生の時に数学でつまずき、中学校の時に勉強をもっとしっかりやっておけばよかったと、後悔した体験を語りました。また、部活動を通して人を頼ることの大切さ、勇気をもって挑戦することの大切さを訴えました。

櫻井拓武さんは、部活動を通して、日々厳しい練習に耐えることで、辛いことや苦しいことから逃げることに強い精神力を養えた。それが進路実現への大きな力になったと語りました。また、苦手科目は自分の弱点を分析することがいかに大切かを話しました。

高田柊也さんは、中学生の時、ゲームに夢中で苦手な会話が更に苦手になり、それを直そうとしなかったことを後悔した経験を語りました。

4名の広尾高校生による非常にリアリティに溢れた発表を聞いた中学生には是非、今後の糧にして欲しいと感じました。

SCCの記録

SCCとは、Secondary Collaborated Class の略称です。これは、多様な能力や様々な適性を持つ広尾の子どもたち一人ひとりに応じた「きめ細かな学習指導」を通して「基礎・基本の確実な定着」を図っていくために、中学校と高校が連携した合同授業や出前授業、TT、チューター学習などを行うものです。新型コロナウイルス感染症流行の中、感染症対策に工夫を凝らしながら行われた取組をご紹介します。

○国語

国語科では、2回にわたってSCCが実施されました。

①まず12月8日（木）に高校の青木教諭の指導の下、高校2年生 Academic コース選択者が、広尾中学校1年生に対して古典の魅力を伝えるという授業が実施されました。中学生が古文の知識を深め、作品に興味を持ち、学びを深めたいと思う、良い機会となりました。



②また、1月24日（火）には、高校の岡部教諭が、広尾中学校3年生を対象に授業を行いました。数人が座って会話する写真を見て、コミュニケーションとは何かについて作文をしてもらい、自分の意見を表現する方法を学ぶという内容でした。高校での学びにおいて「自分の考えを表現する」ことが重要事項として掲げられる中で、中学生にも表現力を意識してもらう良い機会となりました。

○数学



10月11日（火）、高校2年生がチューター役となり、広尾中学校にて中学3年生の学習をサポートする授業を行いました。3～4人のグループを編成し、そこに高校生を割り当て、学力テストの問題を用いて、問題演習の時間としました。つまずくところは人によって様々ですが、高校生が個別に指導し、問題解決できるようになった生徒が多く見られました。また、高校生との交流の機会に



もなり、中学生にとってかけがえのない一日になったと思います。

○社会



12月8日（木）、広尾高校の千葉教諭が「北海道はいつから北海道なのか」というタイトルのもと、中学校3年生2クラスに対して、授業を実施致しました。授業の中では、北海道の名前がいつ決まったのか、誰が北海道の名前を決めたのか、北海道の範囲はどのように変化をしているのか、という3点を中心に、プリントやクイズアプリ、音楽などを活用し、授業が行われました。実際に史資料をもとに、北海道の範囲について

グループで検討をした際には、広尾町と近藤重蔵の関係性や北方領土の歴史を踏まえて、生徒の多種多様な考察を地図上に表現することができました。授業実施後の感想には、「楽しかった」「面白かった」という声があると同時に、「北海道の歴史について、興味を持つことができるようになりました」という歴史の勉強について意欲が高まった生徒や、「北海道の範囲が変化していることを知らなかった」「北海道の名前が150年前に付けられたことを初めて知った」という新たに知識を獲得することができた生徒もあり、楽しく充実した授業の時間となりました。また生徒の中には「広尾高校で勉強するのが楽しみです」という意見もあり、次年度以降にもつながる活動となりました。



○理科

1月24日（火）、広尾高校にて実施。広尾中学校より三宅教諭、杉山教諭が来校し、広尾高校の関尾教諭、伊藤教諭とともに高校1年化学基礎、化学反応式の量的関係の単元にて TT 形式での授業を実施しました。毎年モル計算に苦戦する生徒が多く、きめ細やかな指導が必要になってくる単元であるため、生徒のつまずきを隅々まで支援することができました。

2月7日（火）、広尾中学校にて実施。広尾高校より関尾教諭、伊藤教諭が来校し、広尾中学校三宅教諭、杉山教諭とともに中学2年生理科、オームの法則の単元にてTT形式での授業を実施しました。上記同様に毎年つまずきを抱える生徒が増える単元であるため、4名体制で生徒の支援に当たることができました。

○英語



12月8日（木）広尾高校の浦田教諭、船越教諭が、広尾中学校3年生を対象に Speaking 指導を行いました。英語検定や、中高一貫英語面接を意識し、“May I come in?”で始める入退室から、英語での応答を実践する授業です。生徒たちは、英語での受け答えに不安を抱き、緊張しながらも授業へ真剣に臨み、笑顔でコミュニケーションを取る姿が多く見られました。



また、授業後には「聞かれていることは、分かるがなんと答えたらいいのかわからない。」と自分の弱点を認識すること、「思っていたよりも答えられた！」と3年間の授業の積み重ねを実感している生徒も見られました。

○保健体育

12月9日（金）3・4校時、広尾高校体育館において、広尾中学校2年生と、高校3年生の科目「生涯スポーツ」選択者の合同授業が2時間にわたって実施されました。鉄棒・マットを用いた器械運動の授業で、高校生が中学生に様々な技術を教えました。中学生たちの中には逆上がりや倒立など今までできなかった技が成功したという声も上がったほか、高校生たちは例年以上に中学生と積極的にコミュニケーションを図ることで、教えることのやりがいや、楽しさを学ぶことができました。



中高連携 生徒の活動から

中高広域合同清掃活動 10月6日（木）

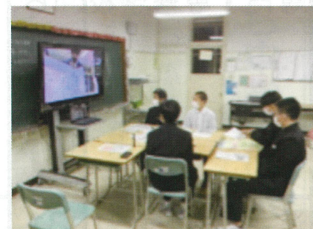
この日の午後2時間にわたって、中高広域合同清掃活動が行われました。中学生と高校生が協力して町内清掃をすることで、中学生と高校生のコミュニケーションを増やし、郷土への美意識と社会性、奉仕の心を育む取り組みです。中学生と高校生の混合10チームで、市街地や広尾川河口流域などを手分けして清掃しました。

広尾中学校、前期生徒会長齊藤敬也さん（3年）は、「高校生が積極的にコミュニケーションを取ってくれて、気軽に活動に参加することができた。3年生は広尾川河口流域のごみ拾いをしたが、思ったよりゴミがあって大変だったが、自分たちの町をきれいにできたのは良かった。来年度以降もこの活動は続けてほしい。」と話していました。



中高生徒会交流 12月8日（木）

今年も広尾中学校と広尾高校の生徒会交流が行われました。本来は対面で行われる予定でしたが、新型コロナウイルス感染予防のためリモートで行う運びとなりました。今年度は「中高合同清掃の反省」について話し合いました。KEEP（よかった点）、PROBLEM（問題点）、TRY（改善点）の三つに分けて意見を出し合うという方法で話し合いをしました。実際の話合いでは、「ゴミをしっかりと拾えていた（KEEP）」、「交流があまりできなかった（PROBLEM）」など、積極的に反省している姿が見られました。



広尾高校生徒会副会長の鈴木翔大さん（2年）は、「中学校の生徒会と意見を交流してみると、高校生とはまた違った視点からの意見が多数出ていて、視野を広げることができました。来年度以降の中高合同清掃は今年度の交流で出た意見をもとにして、さらに良い行事にしていきたいと思います。」と話していました。

令和4年度 北海道広尾高等学校 3学年の進路状況

令和5年2月15日現在 3年生在籍 男子:20名 女子:25名 計:45名

<就職志望者 14名> 決定者数: 男子6名 女子8名 計 14名

進路区分	希望者数			決定者数			内 定 先
	全体	男子	女子	全体	男子	女子	
就職町内	6	2	4	6	3	3	イタックス株式会社、とかち飼料株式会社、日高信用金庫、十勝グリーンセンター株式会社、拓殖工業株式会社、株式会社アルムシステム
就職管内	4	1	3	5	1	4	株式会社東北海道リースキン、株式会社江戸屋株式会社登寿ホールディングス ダスキン事業部、ヘアクラブ MOCK、雪印メグミルク株式会社
就職道内	1	1	0	1	1	0	旭川トヨタ自動車株式会社
就職道外	0	0	0	0	0	0	
公務員	3	2	1	2	1	1	幕別消防署、広尾町会計年度任用職員
自営・その他	0	0	0	0	0	0	
就職者合計	14	6	8	14	6	8	就職希望者割合 31% 内定率 100%

<進学志望者 31名> 決定者数: 男子12名 女子13名 計 25名

進路区分	希望者数			決定者数			決 定 先
	全体	男子	女子	全体	男子	女子	
4大国公立(文系)	4	1	3	1	1	0	釧路公立大学
4大国公立(理系)	2	1	1	0	0	0	
4大私立(文系)	6	4	2	5	3	2	北翔大学(2)、北海学園大学、国際武道大学(2)
4大私立(理系)	0	0	0	0	0	0	
短大国公立	0	0	0	0	0	0	
短大私立	1	0	1	1	0	1	帯広大谷短期大学
看護学校	2	0	2	2	0	2	北海道社会事業協会、三草会
専門・専修学校	16	8	8	16	8	8	札幌工科、北海道芸術デザイン(2)、札幌ベルエポック、札幌スポーツ&メディカル、北海道医療大学歯学部附属歯科衛生士、札幌スイーツ&カフェ、札幌医学技術歯科、大原法律公務員、札幌ブライダル&ホテル観光(2)、北海道農業協同組合 JA カレッジ、北海道福祉・保育大学校、グルノーブル美容、北海道ハイテクノロジー、日本工学院
進学者合計	31	14	17	25	12	13	進学希望者割合 69% 合格率 81%

<全 体>

	在籍者数			決定者数			進路決定率
	全体	男子	女子	全体	男子	女子	
合 計	45	20	25	39	18	21	84.4 %